

〔史料紹介〕

『邦訳 日葡辞書』⑥

——わが国中世の児童文化史研究によせて——

M・M・M

F字で始まる語

(承前)

ハウカ (放家)

道化手品師。

ハウコ (這子)

大きな人形。

ハウダイ (放題)

しつげが悪くて物事をするのに下品なこと、または、礼儀

正しくないこと。

ホンバラ (本腹)

嫡出子。

(例) あれ本腹の子ぢや、または、あの子本腹ぢや。(あれ

は嫡出子である)

ホンブク (本腹)

正しい本来の妻。

ホレ、ルル、レタ (耄れ、るる、れた)

強く愛好するものとか、心ひかれるものとかに熱中して
いる。あるいは、夢中になっている。

(例) 子に耄るる (子どもに常軌を逸する程の度外れに愛情

を抱く。

ハウサウ (疱瘡)

天然痘。

ホソノヲまたはヘソノヲ (臍の緒)

赤児が生まれた際に臍につけてはらわた。

ホトヲリケ (ほとほり気)

子供の熱の出る病氣。

(例) ホトヲリケニ ゴザル (ほとほり気にござる) 熱の出

る病氣にかかっている。

ハウエ (胞衣)

エナに同じ。母の胎内で胎児が包まれている小さな皮、あ

るいは、皮膜、すなわち胎衣。

ホエル (吠・吼える)

犬が吼える。牛がうなる。狼が吼えるなど。また比喻、幼

い者や年若い者の泣くことを言う下品な言い方。

フカウ (不孝)

父や母に従順でないこと。

フクゲ (ふく毛)

幼児や、その他鬚の生えていない人の顔にある柔らかな毛

「うぶ毛」。

フクログ (袋児)

胞衣に包まれたまま生まれた胎児。

フクシ、スル、シタ (復し、する、した)

学んだり聞いたりした事を繰り返して見る、あるいは、見

返す。

フケウ (不孝・不興)

子が親に対して、または、弟子が師匠に対して従順さを保

たないこと。

フリソデ (振袖)

九州方言の語。子供が着る習わしになっている着物の、

(腋の下の) 開いている袖。

フリツツミ (振鼓)

子供が使う小さな手太鼓の一種。

フリワケガミ (振分髪)

五、六歳の子供の髪で、ばらりと垂らしたままで、結ばな

いでいるもの。詩歌語。

フルコト (古言)

ある人が昔子供の時分に言った言葉。詩歌語。

フタツゴ (二つ児)

二歳の幼児。

G字で始まる語

ゲンブク (元服)

子供に大人としての名前をつけ、初めて刀を佩用させること。

グシ (愚子)

おろかな子。知恵の浅い子ども。愚息という方がまさる。

父親が息子の事を謙遜してこのように言う。

ヂダダ (地だだ)

(例) チダダヲ フム(地だだを踏む) 一種の速い、せっかちな

な歩調で地面を踏みつける、または、両足で地面を打つ。

チョクケツ (濁血)

婦人が産後に排出する血のように、悪い腐った血。

I字で始まる語

イバラガキ (棘掻き)

茨でひっ搔かれること。

(例) イバラガキニ セラルル(棘掻きにせらるる) 子ども

たちが喧嘩をして、互いに顔を引つ搔き合う時のように、人から搔きむしられる。

イダキンダテル(抱き育てる)

両腕に抱いて育てる。

イヌバコ(犬箱)

厚紙で犬の格好に作った箱で、子供がおもちゃにするもの。

イキアイキャウダイ(行合兄弟)

子どもを持つ二人の人が結婚すると、それぞれの子ども一

人一人は、女親か男親かに対して継子の関係になるけれども、子どもたちは互いに兄弟のような間柄になる。このような関係にある二人の子どもたちを言う。

イロヲナオス(色を直す)

着物の色を変える。たとえば、赤子が誕生後二十日か三十

日あとにし、結婚する人が二日か三日あとにするように、

または、ある死者のために喪に服した人が喪あけにするよ

うに、着物の色を変えること。すなわち、これらの人々

は、すべて白い着物をぬいで、種々の色のついた着物を着

るのである。